

学校経営の基本方針

1 教育目標「しなやかに」の理念に基づく基本姿勢

「しなやかに」とは、竹俣の名に由来し、風雪や嵐にも負けず、柔軟でありながらまっすぐに伸びていく竹を、子供たちが成長する姿に見立てた言葉である。同時にそれは、子供たちだけではなく、教職員や保護者にも大切にしていきたいことである。

当校の設置学級の形態は、本校、分校ともに県内唯一の形態である。そのため、常識や慣例等にとらわれない柔軟な発想で教育活動を進めていくことが重要であると考え。目の前の子供たちが「しなやかに」成長するために、まずもって私たち大人が子供たちのお手本となるように、困難があっても頑なになったり、挫けたりすることなく、互いに助け合い、困難をバネに進み続けることができる「しなやかな」大人でありたい。

そして、教職員が一丸となって「いじみの分校らしい」教育の在り方を作り出していきたい。

2 学校経営の重点と方策

児童・生徒一人一人の人権を尊重し、寄り添い、考え、学ぶことを常に基本とし、その子の笑顔、その子の自己実現のためにどのような力を付けてやるべきか、そのために何をすべきかを協議し、それぞれの考えを共有（思いを理解）する中でよりよい支援に努めていく。（教職員一人一人の発想と職員間の合意形成の大切さ）

(1) 一人一人の自己実現に向けた教育課程の編成

- 児童・生徒の実態・夢に対応した教育課程の見直し
 - ・卒業後の生活を見据え、目標と育成すべき力を明確にし、指導内容と支援の具体化を図る。
 - ・学習や活動に意欲的に取り組めるように指導形態や活動を工夫する。
 - ・安心して過ごせる場作りや、より良い人間関係の中で学ぶことができるように集団作りと関わり合い活動を工夫する。
 - ・考え、判断するために必要な情報を多様な方法で入手したり、自らの思いや考えを多様な方法で表現・発信したりできるようにICT教育を推進する。
 - ・地域資源を生かした体験的学習を工夫する（交流及び共同学習）。

(2) 関係機関との連携とネットワークの構築

- 地域の学校、施設、人、自然など地域資源との有機的な関係の構築
 - ・学校、大学、福祉、医療、行政との連携による多面的な支援の充実を図る。
 - ・「地域の子は地域で」の思いを共有できる支援体制の構築を図る。

- ・地区の BM や全県の特別支援学校進路指導主事との連携強化を図る。
- ・幼保、小・中学校との連携による就学支援体制の充実を図る。

(3) 開かれた学校づくりの推進

- 地域とともに、地域を大切にす教育活動の推進
 - ・地域資源（人、物、自然）を活用する教育活動の工夫を行う。
 - ・学校教育活動の公開や発信方法を工夫し、積極的に地域に学校を知っていただく。
 - ・地域のセンター的役割を充実させるために、教育相談、研修会等を開催したり、要請に応じて巡回相談等を行ったりする。
 - ・学校ホームページ等で特別支援教育にかかわる情報を発信し、理解啓発活動の推進を図る。

3 保護者や地域の人に信頼される安全安心な学校づくり

(1) 相手の気持ちに寄り添った教職員の対応

- 本校がこの地であってよかったと提供いただける学校づくり
 - ・尊重：相手の人格や立場を尊重し、敬意と誠意を持って接する。
 - ・傾聴：丁寧に聴く、親身になって考える。
 - ・感謝：してもらったことを当然と思わず、お礼の気持ちを表現する。
 - ・連携：教育者として伝えるべきことを伝え、対等な立場で連携する。
 - ・健康：いつも笑顔で対応できるよう、自己の心身の健康管理を心掛ける。

(2) 安全・安心な学校

- 様々な場面を想定した危機管理対策の構築
 - ・感染症等における日常的な感染・拡大防止の徹底。
 - ・医療的ケアガイドラインに基づく医療的ケア環境・マニュアル等の整備。
 - ・日常生活における危険箇所の発見と整備・点検。
 - ・最新の災害対策情報を活用し、災害時の備えと対応に努める。
 - ・様々な最悪の状況を想定した緊急対応訓練を実施する。
 - ・緊急時の連絡方法の複数化を進め、使用方法の周知を図る。

(3) 教職員の専門性の向上

- 個々の得意分野と専門性の更なる向上と組織としての学校の教育力の向上
 - ・働き方改革の推進により、職員の自己研鑽の時間の確保を図る。
 - ・学習指導要領の授業改善の視点に基づき、各指導形態における授業実践を積み重ねる。
 - ・個々の研修計画に基づき、WEB会議等による外部研修への積極的な参加など、最新の児童生徒理解や支援方法の習得を促進する。（特に発達障害特性への適切な対応や在学中・卒業後の福祉サービス及び進路支援について学び、児童生徒のサポートに対する専門性を更に高める）
 - ・学級、学年、学部、分掌を超えて問題解決に当たるチーム力の向上を図る。
 - ・竹俣本校との研修交流を進める。